

## 第2回教育総合会議会議録

1、開会年月日 令和6年8月29日（木）

2、閉会年月日 令和6年8月29日（木）

3、出席委員氏名

並河 健	伊勢 和彦	吉田 義和
西田 伊作	西畑 敦司	末浪 真希

4、委員及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名

事務局長	奥村 紀一
教育次長	山口 忠幸
教育総務課長	前山 紘昭
まなび推進課	藪内 善史
まなび推進課付課長	大石 有香
文化財課長	今里 美恵子
教育総合センター所長	綿谷 圭介
図書館長	高橋 樹一郎
市民総活躍推進課	養父 香
こども未来課	河合 宏明

5、会議に付した議案の件名

教育大綱について

6、会議の経過議題

開会	午後 1 時 00 分
終了	午後 2 時 01 分

## 1. 教育総務課長

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

予定時刻が参りましたので、今年度第2回天理市総合教育会議を開催させていただきます。

まず、市長よりご挨拶をいただきます。よろしくお願いします。

## 1. 市長

はい。大変お忙しい中、天理市総合教育会議ご参集いただきましてありがとうございます。

平素より、教育委員の皆様方には、学校園運営において大変なお力添えをいただきました。

特に今年は4月からほっとステーション立ち上げる中で、様々な形で、ご助言もいただき、また保護者との対話であったり、或いは各方面からの視察にも同席をいただきまして、御礼を申し上げます。

今日は次期教育大綱についてということでありまして、もう早速本題でいいのかな。

ちょっとすいません。座って失礼をさせていただきますが、先日、文化庁の合田次長という方と、ほっとステーションについて会話をさせていただきました。資料もお配りをしているかなと思います。この方は、今文化庁にいらっしゃるんですけども、2017年の学習指導要領改訂の中心的な役割を果たされて、10年に1回の会議で次が2027年なんですけど、そこに向けて相当議論をされておる方であります。

合田次長が私どものほっとステーションについては、学校現場を閉ざされた部分だけでなく、心理士であったり、専門職の視点を交えながらというところをやっぱ非常に、高く評価をいただいたわけでありますけれども、その中で、その子どもたちをどのように育てていくのかということについて、ぜひちょっと継続的に対話したいと、こんなこともおっしゃっていただいています。

前回の教育大綱は市が取り組んでいる中身をちょっといろいろ取りまとめるような形だったかなと思いますが、やはりこれだけデジタル化も進んで生成AIも出てきて、求められる人物像というところが、相当変わってきている中で、まず、世の中がどうなっていて、どういった力を子どもたちが養ってることが期待されるんだというような部分を、まずしっかりこの場で、皆さんと議論をさせていただいた上で、何かそういう力を育てるためには、じゃあどのようにその教育基盤である学校園所はあるべきなんですか。或いは先生方はどういうアプローチをやっていくべきなんですか。こういう順番でちょっと話をしていく必要があるんだろうというふうに思った次第です。

なのでどさっと資料を合田さんからいただいたら、早々に西畑さんから、彼が書かれたものを送り返していただいて、ちょっと私も拝見して、非常にわかりやすくまとめていただいているので、いいなというふうに思ったんですけども。なので今日はプレスト的に、忌憚のないご意見をいただきたいというふうに思っております。

#### 1. 教育総務課長

ありがとうございました。案件に入ります前に、資料の確認をさせていただきますと思います。

お手元に、資料の方もご用意させていただいております。本日の配付資料として、資料1、資料2、そして現行の教育大綱及びアクションプラン。教育振興基本計画、そして今、市長からお話がありました資料、こちらの資料が参考資料という形です。それでは案件に入って参りたいと思います。

案件の議事進行につきましては、並河市長にお願いしたいと存じます。

#### 1. 市長

もう早速入っていききたいと思います。

合田さんのやつも別に彼の私見に流されるということではないと思うんですけども。

次の学習指導要領を作る人がこういう視点でいるんだということを、我々今先取りで議論をさせていただいている状況なんで、それを踏まえてやっていくというのは、うちだけが変なことをやるということではないと思っております。

資料を案として作っていただいているところで、これは、さくっとご説明いただいた方がいいんでしょうか。

それとも、もうこれ見りや大体わかるから、もうできるだけ今日は時間一杯ご意見を伺えばいいんでしょうかね。

#### 1. まなび推進課長

そうですね。やっぱり資料1の方で大体こういうふうなレイアウトなり、1枚で、シンプルな形にできたらなというふうに教育大綱を考えております。

それを作る上で、キーワード、どうしても盛り込まないといけないっていう、目指す方向性のキーワードの案を出させてもらってますが、その辺のご議論をお願いします。

#### 1. 市長

まず子どもたちを取り巻く環境の変化っていうところをどう見ていくかな

んですけれども、その西畑委員から送っていただいた資料にも相当書いておりますが、私がざっくり思うに、もう前回の我々の教育大綱のときから比べても、少子高齢化が極めて顕著。生産年齢人口が減る。その中で DX と外国人人材が入ってくる。

もうこれはもう、どんどん進んでいくのは不可逆的でしょうということの中で、定型なお仕事。つまりは指示されたことを、しっかり着実に組織の一員として、こなしていけばいいというお仕事については、デジタルか或いは外国人人材に変わられる可能性が極めて高いと。

これが、社会に出た時にですね、もうこれから子どもたちを待ち構えている、間違いのない現実ということであるならば、その人でなくてはいけないその多様な役割であったりとか、その多様なサービスを担えるようなことが少なくとも必要ですねみたいな感じで、まず世の中がこうなってるんでみたいなところを、しっかりと先生方とも共有をしないと、ありがたい姿の部分だけ並べても、ちょっと今までと余りにも違い過ぎて、なんでそうなるんですかとか、或いはその子どもたち自身や保護者が理解できないかなと思うんです。

そんな感じでしゃべってしまいましたけど、どうでしょう。

今申し上げたまずこれから子どもたちが向かっていく社会について、分析的なことでもキーワードこういうことじゃないかなというのがあれば、伺いをしたいと思いますけども、どうぞ西畑委員。

## 1. 西畑委員

先生方だけじゃなくて保護者の方もそうだと思うんですけど、どうしても大人っていうのは自分が経験したことをベースにして物事を考え、私たちはこういう教育を受けてきたんだ、いやそうじゃないんだ。

自分が社会に出て、指導する立場に立ったら、お前自分で考えて動けよって絶対言いますよ。自分で考えて動けよっていうことを、子どものうちからちゃんと教えられてなかったらやっぱり、そんなことに絶対ならないですよ。今の 60 代の方が大事にしている人たちっていうのは、自分の言う事を聞いてくれる子なんです。そうじゃないんですよ。新しい価値観をどんどん作り出さないといけない。自分で考えられるという事。じゃ、どうやって自分から考えるのかっていう事を教えましょうっていうのが今回の教育指導要領のはずなんです。それを出来ていないのだから、まずは大人がどう理解するか、先生方にもそうですが保護者に対してもこういう教育するんだっていうのをお伝えないと、軋轢が出てくるところじゃないかなと危惧しているところです。

## 1. 市長

それはまた、どういう力をつけるかとかそのために学校、保護者、どういう体制臨むかっていう部分で、また掘り下げて議論したいと思うんですけど。この世の中についてのまず社会情勢ですね、子どもを取り巻く社会情勢について、さらに何か思われる部分があれば。

#### 1. 西畑委員

今おっしゃってるように、生成 AI を実際使ってみると、今まで自分たちが検索したようなキーワードしか入れないので、全然面白くないんです。それをどう使いこなしていくのかっていうのを考えなくてはいけないんですが、利用するスキルっていうのが必要になってくる。子どもが身に着けるっていうのは勿論必要なんですけど、それをどうやって身に着けるかという突拍子もないことを考えてくってことですよね。

何か突出した考え方をポツと出しても受けられるという事が必要なんじゃないかなと思うんです。今までのフラットな取り組みをやっていると AI が全部やってしまう。

#### 1. 市長

DX にどんどん変わっていく部分なんかを認識しないっていう部分ですよ。それで言うとその多分前の部分は、西畑さんがおっしゃってたのと合田さんが言ったのはほとんど同じだなと思いました。工業化社会では計画的な勤勉性と文章処理が必須だったんで、この感性にしっかり合わせましょうということが、この 150 年来の教育でやってきたことだと。ところが、ここの部分が必ずしも求められる内容ではなくなってきましたよっていうことをまず前提認識として持ってるか持ってないか。

今までの工業化社会で求められてきたような部分が継続するという認識の人がいたとするならば、何でいかなのだと、みんなの中できちんと決められたことをしっかり守ってカチカチとやっていくのがええやないかとかこういう教育の姿になる。そっからすると多分西畑委員が一番そういう意味では、もうここから対極の世界に向かっていくことを前提にっていうご意見だと思うんですが、他委員の皆さんのご意見いかがですか。

#### 1. 末浪委員

これからの子どもたちや私たち自身にも求められる力だと思います。社会全体が変わってる。

#### 1. 西田委員

同じなんですけども、やっぱりその子どもたちを取り巻く環境が変化していくスピードっていうのがやっぱり速いと思うので。

そのスピードに、ある程度技術的には子どもたちはコンピューターのことでも何でも、それについていく力もあると思うんですけども、それを使ういわゆるメンタルといいますか、使い方がやっぱり一方で追いついていない。その進んでいく技術的なスピードとともに、使いこなす心の面ですかね。

やっぱり、併せもって進めていかないといけないと強く思います。

## 1. 市長

それは、結構我々も思っていることなんですけど、生成 AI で去年やれると思っていたことが開発者自身も超えるスピードで出来ている、ただ一方でリスクもたくさんある。情報が散乱しすぎて何が本当の事なのかっていう、フェイクも見極めることができないし、それを SNS なんかで見たら、似た情報がバーストとフィルターバブルっていう言葉がよく使われてたんですけども、どんどん見定める力がなかったら本当に偏ったところに流されていたり、技術にですから、こちらが使う側というよりは、振り回されるようなリスクも、はらんでいる。

## 1. 吉田委員

世の中の進展に合わせて、学校教育もずっと改革はされてきたわけですけど、根底にあるのはね、朱子学の目上の人から下のものが知識をいただくと。そういう知らず知らずのうちに刷り込まれたものが日本の教育にはずっと繋がってると思うですよ。今先生から学ぶということよりも、それもあるんですけども、朱子学的なことはいけないって言ってるわけじゃないですよ。先生から学ぶこと以外にも、子ども同士で意見を出し合ってそこからいいものを選んでいくとか。或いは、自分が学んだことを、他の知識も総合して、新しいものをつくり出して、子どもが発表していくとか、そういった学びを今はこうやろうとしてるんですけども、それは、これまでの教育の流れのつけ足しとして入ってきてるんですよ。

これまでの上の人からいただくという、そういう形が、これからは通用しないんだってことをみんな学ばないことには。

## 1. 市長

それはつきたい力の次に議論をしたい。その為の教育基盤があるべき方向性とはどうなんだっていう部分で、ちょっと掘り下げて議論いただきたいと思うんですけど。社会情勢の認識としてはいかがですか。今言った議論してたような

こと、違和感だったりとか、何かさらにこう追加で生まれる点とか。朱子学的なやつが悪かったわけではないというか、それがうまく機能してた時代もあった。

1. 吉田委員

以前はその例外を認めず、型にはまる子を対象に。

1. 市長

農村で日本みたいに決められた時期に田植えしないと駄目みたいなときは、私みたいなのがむしろ和を乱してですね。駄目なんです。コミュニティーを危険に晒すんです。だからそういうときは本当に上の代からずっというところが長く、だから朱子学が二千五、六百年ぐらい続いているのは、多分そういう背景もあるんでしょう。

それが工業化でそれがもっと確実にきちんと着々と、細かい指示までしっかりこなすみたいな。それが変化しつつあるっていう部分の認識は大体同じような感じでそうですね。よろしいですか。

1. 吉田委員

はい。

1. 教育長

全くその通りだと思います。

合田次長も申し上げたサプライサイドから、デマンドサイドに移す所らへんが、まさしくそうだし、年長者が今までの方法で行くという事が心地よいと強く思っているところから、時代を担う力をつけることが、今の大人の社会の義務だと思うことからまず。

1. 市長

だから、時代が個性的だった部分から極めて変動が激しいんで次代を担うような感覚っていうところ持っていないと駄目だということでもよろしいでしょうか。或いはさっき吉田委員がおっしゃっていただいていた部分でいうと、その上の人自身もその姿勢をとっている部分からいうと、ちょうど西畑さんが送って頂いたものを書いてある、要は教える側も立場年齢を超えて互いが対等であるという感覚をしっかりと持ちましょうとか多分その辺に繋がってくるということですかね。

社会情勢については、今キーワードが出たんで、大体よろしいですか。

つけたい力のところに行きましょう。

その上ででもおっしゃっていただいたそのサプライサイドからで、デマンドサイドっていうのは非常に大事な部分だと思っていて、実は昨日、藪内課長だったりとか、まなび推進課の皆さんと教育長も含めて議論してたんですけど、青少年健全育成会議ってあるじゃないですか。どうですか。

1. 末浪委員

たびたび出ますよ。どうするどうするっていう意見があります。

1. 市長

まさにサプライサイドの権化になってないかっていう話で、つまり、多分青少年健全育成って言葉自体が、80年代ぐらいにカチッと型にはめたいところで反発して、型にはめられたくないと暴れちゃう子がいると。

この子たちをちゃんと他の人たちと協調して、社会の一員として真っ当に、育てようっていう言葉がもう健全育成って言葉に込められてると思うんです。

「私の主張」もすばらしいんですけど、明らかに大人の手が入ってて、聞いているの大人ばかりだし、大人が聞いて喜ぶ内容を言ってる。

それ本当に子どもなのかっていう話からすると、ちょっと今回の教育大綱は、従来の青少年健全育成を脱却して、子どもが健やかなのかっていうところにこだわらないかという話をしてた。つまり、大人の視点だったり社会の従来視点から見て、この子は健全で真っ当だっていうんじゃないくて、その子その子が心も体も健やかでハッピーっていうのが子ども真ん中なんじゃないのっていうふうな形に変えた上で、多分つけたい力っていうのを議論していかないと、ずれてしまうのかなと思うんですがいかがでしょう。今私が申し上げたのは、わかっただけですしょうか。

1. 末浪委員

それこそ視点がどこなのっていうところですよ。物事を考える時に、誰目線で考えるかという所ですよ。

1. 市長

社会の情勢がこうだったとしても、その中で、つまり変動する社会で、日本の競争力を上げるための優位な人材を作り出すのはみたいな考えで、やるっていう形になると、その子自身が幸せか云々というよりも、社会として有用な人間を育てるという視点は何も変わらない。

公教育の役割は何なんだとかっていうことを考えていったときに、やっぱり



ちょっと違うんじゃないかな。本当に多様な、やっぱりその社会情勢の中でちょっと言いそびれた部分でいうと、家庭が極めて多様化してる。課題も多様化している、経済的社会的状況っていうのが全然違う。

格差がこのままいくと拡大する恐れがある。その厳しい状況であればチャンスがそもそも与えられる可能性が少ない。

教育長がこの間、所得によって体験学習の機会が全然違うって話がありましたが、そういういろんな子どもたちが集まってる集団っていう部分も担うのは公教育で、同質性が高いところでうちの子どもはがっちりやらせたっていう人は私立を選ぶんだと思います。

そこはもうそこは選択として仕方がない。一定の社会経済的、或いはその学力的な部分以上の子が集まってるところでご自身のお子さんの、社会における将来の競争力を高めたいっていう方は私立を選ぶ。

それを場合選ばれること自体は、それは仕方がないんですけども。そうではない公教育っていうことを考えていったときに、結局、それぞれの子どもが、ハッピーに生きられるっていう部分での、子ども真ん中に視点を変えていかないか。

多分この話が教育大綱でしっかりできれば、今までも従来ずっと続いてきたうちのいろんな会議体だったりの、役割も変えていくって話になると思うんですが、この点いかがでしょう。

## 1. 西畑委員

健全育成という言葉があってもいいし、社会に対して有用な人間を排出するというのはあってもいいと思うんですよ。

でも、その社会に対して有用であるとか健全であるとか言う事自体がもう変わっちゃってるでしょっていうのが市長のお話ですよ。

## 1. 市長

両方ですね、社会自体もめっちゃめっちゃ変わってるし、そのその社会に有用の視点が行き過ぎてしまうと、個人として無理してたりとか、個人の心身として、実は辛いとかっていう部分からすると、ある時期まで優等生だった子が、途中でそうでなくなっちゃって、ちょっとおかしくなっちゃうとか。高校進学したんだけど、なぜかそこでもうやめてしまって、その次に繋がってないぞとかがあるとしたときに、その社会での有用性が主なのか、個人での個人個人が自分として幸せに生きられるっていう部分にもっと重きを置いていくのか、結構大きな違いなのかなと思うんで。公教育の中で考えないといけないのは、強いものだけが生き残るみたいなことでもいいのかっていう、ふるいにかけて子たちの

人生が終わるわけでは決してなくて、その多様な中で、自分なりに幸せっていうような部分をちゃんと見つけていけるだという部分をもっと大事にしないと、全体としての質を高めるみたいな議論がどうしても出てきちゃうんじゃないかなっていう。

## 1. 教育長

学力をどうつけていくかっていう、去年定例教育委員会で委員さんの意見をもらったと思いますけど、もう今の学力調査の点数では、生きる力や非認知能力が現れていない。どんなふうに努力をしてもやっぱり家庭的に恵まれてる条件があったり、親の学歴であったり、本の蔵書数であるとかが、反映されたテストになっているので、ここの点数を上げるのをやめようか、やめないでおこうかという基本的な所から話し合いをした時に、吉田委員を中心にやっぱり家庭でそういう余裕のない子、いわゆる平均点に及ばない子こそ、そういう今の学力テストで求められてる問題にも答えていけるような力はある程度必要だからこそ、やっぱり、このテストのここの点数はここの力を付けていこうという論議はしていった方がいいっておっしゃられたと思うんです。

今、健全な育成という言葉が残ってもいいと仰ったのですが、いったい誰を、どんな子をターゲットにしてどんなイメージを持つのかという時に、常に社会は変化をしているんだという事。その変化を楽しめる子どもであったり、違う違いを喜び合って繋がっていける力を持たないとこれからどんどん予想もない変化がありますから。

## 1. 市長

だから、そこですよ。だからそこで言うよね。つまり数直線上にも並べる偏差値でこの優劣がつくっていう部分から、だんだんそれはAIの優位性が高くなって取って変えられるっていう時に、人間しかできない多様なサービスだったり多様なあり方っていうふうになったときに、ここの部分が苦手だったけど、ここはちゃんと自分としては得意ですであったり、ここの部分にしっかりやりたいっていうような子がちゃんと自分の居場所を見つけられるんですか、みたいな部分を大事に工夫していく。そう考えていったときに、その子の内面、外から見ての評価ばかりじゃなくて、その子の内面的に充実して、幸せですっていう事を大切にしてあげられるような部分が、その子その子のまん中なんじゃないのって思います。

## 1. 教育長

だから特別支援教育でインクルーシブが大事なんじゃなくって、教育全体が

インクルーシブになっていかないといけない。

天理市は森永先生石井先生に入ってもらっているのは、そういう見方をしている教育を天理市としては大事にしていこうという、教育全体としてのインクルーシブを追求していくという話だと思うんです。

#### 1. 市長

どんな力を一人一人の子に付けられるようにするべきかっていう事を是非、今日はキーワードをそれぞれよろしくお願ひしたいと思います。

どうでしょう。順番が西畑さんばかりからでもあれなんで。末浪委員から。

#### 1. 末浪委員

色々考える中でやっぱり自分と向き合って、どんな社会が急速に変化しても、自分は自分なんですね。これは今の大人もそうなんですけど、軸を持つとはどういうことかって言うのを、子どものときから意識したような教育が出来たらなと思います。理想論かもしれませんが自分の内面と向き合って、経済状況よくなかったとしても、自分はテストでたくさん点を取って褒められたいと思うんだったら、じゃあその手ほどきをしましょう。だから、自分がなりたい自分になりたいんだったら、こちら側が公教育として力を貸しますよと。そうやって点を取っていく方が理にかなっているかなと思うんです。

#### 1. 市長

今の部分だと2段階あるかなと思うんですけど、なりたい自分がどうなのか分からないっていう子が多いから、まずちゃんと軸としてなりたい自分っていうのをちゃんと持てた上で、なりたい自分になるにはどうしたらいいかなっていう部分も、自分も頑張れるし、周りとしてもサポートしてあげる。その順番でよろしいですか。

だからまずはそのなりたい自分探してみたいなことをしっかりやれるようなことをやった上で、その実現をちゃんと支えられる、もう君の置かれてる環境では無理だから諦め給えみたいなこと言うんではないってことですね。

#### 1. 末浪委員

叶う叶わないかは別としてね。

#### 1. 市長

今は、理想論でいいです。理想論的にこういう事を大事にする天理市の公教育でありたいという部分で結構です。

1. 末浪委員

そういう事を言う為には、自分と向き合わなければいけないし、自分を企画していく力も必要だし、インプット・アウトプットといった教育も必要だと思うし、情報収集の為には技術的な部分も必要だと思います。

1. 西田委員

一つは、人の心の痛みのわかる子どもっていうか、人の気持ちもわかる。やっぱり自分が自分がとなるのは、もちろんそうなんですけども、人の気持ちのわかる子ども。

1. 市長

なんで必要なんですか。その人の気持ちがわかることがなぜ必要ですか。それは逆にできないと何が困りますか。

1. 西田委員

それは人間同士お互いの繋がりでしょね。

1. 市長

繋がりを持っていくために。或いは協力をするために。別に無人島で一人で生きていく系の人であれば、別に人の気持ちを分からなくても、魚が取れたらいいでしょう。

1. 西田委員

それですら、魚がいないと生きていけない。人として生きていくためには一人では生きられない。

1. 市長

やっぱりそこは難しい。一人では難しいということですか。

1. 西田委員

無人島であっても、植物やいろんなやっぱり世話にならなければ生きられない。

1. 市長

人がいなかったとしても、植物だったり動物の世話になるわけですから、自分で光合成して生きていけないということですね。

1. 西田委員

そうですね。人間は一人では生きられない。だから自分自身は、そういうふうに思っていて、そういう意味で、直接身近に接する人の気持ちがわかるっていう事は大事なかなと思いますね。

1. 市長

人間であれば気持ちがわかる、人間以外であったとしても、その周りのことをちゃんと自分自身で整理し分析ができる事が大事。

1. 西田委員

色んな物事に対しての謙虚さですよ。

1. 市長

そのためには、傲慢であつたら、気持ちは分からない。

1. 西田委員

色んな方々に支えられているという感謝の気持ちだったり。そうするとやっぱり人にも優しくなれると思うんです。

1. 市長

分かりました。

1. 吉田委員

今の社会は、昔も分業っていうのがあったわけですけど、どんどん分業が進んできていると思うんです。子どものうちは、すべての教科、いろんなことで、義務教育ですべてのところの能力の力をつけましょうとなっているけれども、これからの世界はさらに分業が進んで、色んな事ができなくてもこれができたら世の中得していくぞということが多くなっていくと思うんですね。

ところが、今の学校の中では、やっぱりある程度全体ができていないとうまく進めないような、そういう受けとめをしてしまうんですね。

1. 市長

だからある程度総合的な能力を求められてですね。

1. 吉田委員

理系文系でいうと、理系はできるけど、文系はできないとか。でも、もっと狭い子も探したらいっぱい居てると思うんです。今後はそういうので、もう一点突破で、社会に出て行ける子もいっぱい出てくると思うんです。

1. 市長

今のお話を組み合わせると、分業で本当に自分の部分だけが飛び抜けてたらいいのかって言えば、多分それがちゃんと周りとも噛み合う形でっていう場合は。

1. 吉田委員

突破するための1つの形としてはいい。

これができたらやっていける。その子たちの世界へ出ればまた別なことを学びに行くわけですね。

だから、そこから先に一点突破、学校の中でも細かい特化した部分で能力を持っている子をグッと引き上げられるような方法が見つかれば社会に出て行けると思いますね。

1. 市長

そういった自分の強みをしっかりと活かせる。それでちゃんと生きていけるぐらいの強みを。工業化とか、今までの社会においては、分業そのものも、いちいち意識しなくても、ちゃんとどういうふうに組み立てていって最終的なものができ上がるっていうのがマニュアル化してもらえてた。それをだからマネージメントするジェネラリスト総合職が、日本の場合は専門職より上に位置付けられていて、専門職の人とはとにかく自分の畑をしっかりとやれば、それをちゃんと車になっていくように、組み立てての部分っていうのはある程度もう設計図ができていた部分が、それができなくなってきたら。だからそうすると、自分の守備範囲のところは本当に突き抜けたところプラス、さっき西田委員がおっしゃっていただいたような、それを他の人とどう橋渡しをして、一緒にいいものを作っていくんですかっていう、多分その両方のバランスが求められてくる。だから、それが、要は全く他の人でも協力しようとしなくて、他の人リスペクトしようとしなくて、自分以外の能力を持ってる人が認められないみたいな話になってしまうと、多分突き抜けたものがあったとしても、それは活かされないということだと思うんで、あそこはなんか、今お二人がおっしゃって

ただいてる部分も、きちんと調和がとれるみたいなことが、その小学校っていうところを小社会というふうに合田さんも書いておられたんですけども、そこにいる意味なのかなあと思う。

1. 末浪委員

技術と心の部分ということですよね。

1. 市長

やっぱり「共生の作法」という言葉を使ってらっしゃるんですけども。だからその共生の作法っていうところを、学校っていうのは多分一番多様な社会だと、県立高校で言っても、西中学校と奈良高校比べたら、やっぱり西中学校の方が多様だと思うんです。

奈良高校になった時点では、ここからの以上の内申点の子という形になってしまう訳で、じゃそうすると小中学校の公教育はその優等生にとって無駄な時間だったのかっていうと決してそういうことではなくって、そこにおいて共生の作法をちゃんと学んでたんだっていう。その共生できる部分の中でしっかり自分の芯を持って、自分の得意な部分を突き抜けるところまでやりたい子は、やれるような。

1. 吉田委員

それしかできない子と、それをつなぐ子とが出てくるわけですよね。  
その両方が出てきて世の中を作るようなものが望ましいですね。

1. 教育長

合田さんは公教育が民主主義の最後の砦だっておっしゃってましたね。

1. 市長

まさにそうですそういう部分を私もその格差が進むと民主主義が機能しなくなるっていう。もうアメリカなんかも、その究極の例ですけども。  
教育長は。

1. 教育長

私も、特化した能力で生きていける時代が来たのが、DX とか或いはネットワークの充実だと思うんですが、そしてその発信に結びつく。だからこそ必要なのが、自分とは異なる他者への関心であったり、他者への承認であったり敬意を、それがやっぱり必要だというふうに思いますね。それを、先ほど西田

委員が言われた感謝と繋がるのかなと思います。自分とは異なるものを攻撃するのか、関心が無いのか。あるいは自分の考えと違う事が面白いと思って、繋がろうと思うのか、或いは、自分の考えとは違うけど承認をしようと思って付き合うのか。そしてそれを尊重するのかということが多様化の中ではすごく大事な事だと思います。

## 1. 市長

ありがとうございます。この話が多分今回の教育大綱の肝だと思うんです。だから、多分、今こうやって皆さんの話を聞いて、家帰っていただいたら思いつく部分があると思うんで、ちょっと次回までにどんどん、こういう力がついていう部分も、思いつかれたものを出していただいたものをまとめていきたい。

それに、ぜひちょっと今回は、前の教育大綱のときは、この場だけで決めちゃった感じがしてるんですけど、生徒指導、現場の校長会の皆さんとかも、どういう力をつけさしたいですかみたいなことについては、ちゃんとディスカッションをして、さっきまでの、だから社会がこうなっていく中でこういう力をつけさしたいんで、それが決してその大人目線というよりはその子を中心とした目線でっていうところまでの共通認識ができていれば、いやだから、例えばほっとステーションこういうふうにやるんだとか、今までやってきたその行事もこういうふうに変えるんだみたいなことが、かみ合うんです。今までっていうのは、そこの多分共通理解がちゃんと成立してないもの同士が、この行事をどうしましょうみたいなとか、こういうふうに教えましょうみたいなことを言うんで、だから、全然立ち位置だったり、土台が違う者同士が話をするから、かみ合わないし、何でわからないんだみたいなことをお互いに思っちゃう。だから、ここをまずしっかりやりたいっていうことだと思います。なので、ぜひ、ちょっとここをしっかりとまとめ、藪内課長も、指導主事の皆さんでディスカッションしたりとか、ほっとステーション或いは奥村局長初め事務職の皆さんも、本当はこう考えたり。

私がここに来るまでに、ざっくりメモってた部分と結構重なるんですけど、自分で目的を設定して達成できる力、多分さっき末浪さんがおっしゃってた部分と近いと思う。

失敗から立ち直る力、自分の思いを整理して言葉で伝えることができる力。もう今、だからそれがうまくいかなくて暴力事案が起きていると思うんです。その中で、他者を認め協力できる力。そこの他者を認め協力できる力ということの中で、やっぱりその違いを尊重できるっていうことがもう前提として必要な力であるし、あとその許し合える力。今この許容度はすごく低いです。

ほっとステーションで、いろいろ案件を見てると、許せない。保護者も他者



を許せない。だから自分が嫌な思いにあったという気持ちだけが爆発してしまって、相手がどういう状況で実は自分が思ってるほどそんな悪意もなかったみたいなことをしっかり分析してくれるってところに行かないし、自分の正義を振りかざして突っ走ってしまうケースが非常に多い。

ここで前栽1年生にこの間スーパーバイザーが入ったときに、1年生のクラスですら、やっぱギスギスしてるっていう。

なんかしょうもないルールみたいなお互いに守らせてる。「○○ちゃん○○したら駄目でしょう」とか「○○くんこんな事して」みたいな感じで、生徒同士がお互いを何かこう許す雰囲気がないっていう話でしたよね。

だから、この辺が我々が今までこだわってきたルールを見直そうという話と繋がってくるんですけど、この許せるっていうのは多分寛容っていうこと近いし、まさに西田委員がおっしゃっていただいたような部分とも近いのかなというふうには思ってます。

あとはすいません。周囲をちゃんと分析して、情報を検証して、次の展開を予想できる力。それっていうのはその情報っていうものが余りにも溢れてる中で、きちんとしたものをその見定める力を持ちましょうっていうことなんかとも繋がってくると思うんです。

合田さんに送っていただいた中で、ヘイトクライムが発生することをどうやって防ぐことができるんでしょうというのを書いていただいたんですが、イギリスの研究者らしいですけど、憎悪あおる情報は誤報であるということをちゃんと認識できると思うんですよ。

異なる他者に対して自分の予断を疑うことができるだとか、自分と異なる人と接触する機会を避けない、他者の立場に立って考える時間を持てる。分断を招く出来事に迷わされない、フィルターバブルを破壊する。

その憎悪行為を見たときに見て見ぬふりをしない、こういうことがちゃんとできる社会ってのはそういうヘイトクライムだったりとか、分断が起きないっていう、ここまでいくとちょっとあれなんですけど。でも、多分つけて欲しい力っていう部分と非常に近いのかなと。

こういう、部分をちょっとちゃんと整理をした上で、そこに学力っていうものをどういうふうにとらえていくかがないと、単に試験でいい点を取らすためにみたいだから、試験でいい点を取るためにこういう部分を強化しようみたいな議論っていうのはもう前提が全部でき上がっていて、社会のルールだったりとか、目指すべき方向性がみんなが一致したその中で、よりよい点を取っていきましょうという発想になったと思うんですけども。ならもうそれやりたい人は別に、多分公教育に期待せずに塾行ってると思う。だから別に学校でその授業しなくていいとか勉強しなくていいということではないとは思

んですが、根本でこういう部分を大事にするんだってのがちゃんとあった上でのことかなと思いますね。

## 1. 教育長

授業の在り様を本当に教科書なめるような授業を変えたい。はっきりおっしゃってました。

## 1. 市長

だからそれ先生自身がこんなもう決まったものをこなすっていうことに追われて精一杯になりすぎて、どんな子ども像を育てたいかを議論する時間なんてありませんみたいな状況になっている訳ですから。それは本当、本末転倒だと考えておられるところは一致してます。

あるいは好きを諦めさせて嫌いを強いて総得点を上げるゲームになってる。学年に縛られ、クラス縦割りの逃げ場がない割り当て空間っていうものをそのクラスという単位で作ってしまって、その中でみんなが息が詰まっちゃってますみたいな。

それをどう解きほぐしていきましょうかなっていう議論に、やっぱりその先生方は先生方でそういう議論を投げかけていけば、本当はこういう子どもを育てたいみたいな部分が出てくると思うんで、ちゃんとそこを言える機会を今回は持った上で作り上げようかな。

## 1. 末浪委員

言い出すためにもちょっと工夫が必要というか、やっぱり固定観念っていうか、思っても言っちゃいけないと思うので。それは、理想であっても。

## 1. 市長

言っちゃ駄目だっていうのは何でっていうことからしたら、子どものためになるじゃないってことは、ちゃんと説明できる論理だったら何言ってもいいっていうことにしたらいいと思う。

ただそのときに、合田さんともちょっと言ってたのは、例えばそれは先生の申し訳ないけど、自己満足であるとか、今年のクラスはよかった。去年は失敗やった。

それは先生の仕事としてはそうなんかもしれないけど、それぞれの子どもの人生の一部なわけですよ。だから今年はこの目的に向けて全員で大縄跳び日本一目指しみたいな感じで感動ものでやってばっと飛んで日本一を取ったとかで、泣いた、みんなで熱かったみたいなもそういう部分ではない。

その部分をちゃんと理解がえられていれば、本当にその子どもがさっき言ったような社会情勢に、いわゆるそれは、社会情勢認識が全然違ったら、しりません。

でもそこがある程度ちゃんと前段で整理をした上で、どういう力を子どもにつけていったら、あなたが嬉しいかじゃなくて、子どもがハッピーになると思いますかっていう視点で問いかけをしたらどうかと。

子どもがハッピーで議論したときに、僕はコチョウランって言って、教育長は菊って言ったんですけど大体同じ意見で、ちょっと園芸分野の方が聞かれたら怒られると思うんですけど。

## 1. 教育長

菊のような教育はしちゃいけないってずっと言われていて、駄目なものは切って良い物だけを残すというのが菊の育て方で、そういう教育はしたくない。

## 1. 市長

トップクラスの私学の進学校はそれでいいのかもしれませんが。公教育の在り方としては切られる方が圧倒的に多いわけだから、皆さんがどうハッピーになるかっていう視点がむしろそっちだよな。

私のコチョウランはあれ植物として幸せなんですかっていう問です。いやだから、人間が見て綺麗とかって言うんだけど、棒にくくりつけられても自分で自立できなくて、こんな、どう考えても不自然なこう花びらめいっぱい広げている状態は、植物にもし感情があったときに、綺麗に咲いてる。本当にでき上がったスタイルのコチョウランだとしても、あなた幸せですかってこう聞いたときに植物として幸せですって言うてくれるのかどうか。

あんまり言うちょっと園芸分野の方に怒られるかもしれませんが、だから私がこう問いかけてる子どもまん中で、子どもにとって健やかで幸せですっていうところに基軸を変えませんかというのは、まさに今のコチョウランにあなた幸せですか本当にみたいな。

あるいはその中で選ばれし菊になったとしても無理してないですか。だから周りに合わせるために頑張って背伸びしちゃったりとか、実は型に合わせて、本当はやりたいことは違ったんだけど、みたいなことじゃないですかっていう。だからそれが本当に数直線的な。もう価値判断がある程度一定な世の中であれば、ただその中でも淘汰されていく中で頑張って、良い学校に行き、良い所に就職し、それなりに出世をすれば、経済的にもしつかり恵まれますみたいな。そういう階段が成り立ってた。

そうやったとしても幸せになるかどうかって全く保障されていない世の

中であって。

1. 西畑委員

80代の方が、「私は働き過ぎた。もっと遊んでおけばよかった」という方が多いですよ。

1. 市長

いや、それは、でも実際そうですよ。だから、高齢者になったときにやる事が無いっていう話がよくあります。

1. 西畑委員

それを Wellbeing っていうことを考えると、外れてますね。どれだけ、いいところに勤めて一生懸命働いてお金はもらえていたとしても。

1. 市長

そういう意味で言うと、その子その子にとっての幸せをちゃんと自分でつかめるよう充実、内面が本当にちゃんと充実出来るような視点で取り組んでいけば、個々にもっとこう注目したような形になってくる。

そこの議論がないと、それこそ GIGA スクールのそのタブレットをどう使いますかみたいな話が、意味がないと。あれもう、単に手段であって、画一的な教育を個々の習熟だったりとか関心に合わせて教育を組み立てられるようにと思って文科省の人たちは思ってるのに、いまだに動画見せて検索させるだけか。提出物を提出させるだけっていうようなところで止まっちゃってる部分もあるんで、それは多分やっぱり根本に目指す部分が違うっていう事です。

今までのところ何か言いたい。しゃべってるうち何か思い付いたとかございませんか。

1. 末浪委員

この話を、学校の現場の先生にもヒアリングが入るんですか。

1. 市長

僕は是非問いかけたいなと思うんですね。

1. 末浪委員

そうしたら是非、先生たちに「コチョウランと菊」の話をしてみてください。先生としての意見を言わなければいけないと思っておられると思うので。

トップの方は市長とかと会う機会があるので少し意識が変わってきているのではないかなと思うのですが、学校現場にぜひ、こんなことを言ったら先輩の先生はどう思うだろうと思っている先生いらっしやると思いますよ。

## 1. 市長

実は思っていたっていう人多いと思いますよ。不謹慎な例えだったかもしれませんが、「コチョウランと菊」の話について課長思うところは。

## 1. まなび推進課長

子どもの良さをどう発揮させるか。どういう環境を作ってあげられるかということでご自身がしっかりと自分らしく生きていける、学んでいけるかっていう環境作りが。

## 1. 市長

それを次に考えましょう。9月に第3回目の会議の時までに「どういう力をつけたいですか。」っていう話を継続して考えていただくとともに、そういうふうにするためには、教育基盤の方が、どういう視点でアプローチをしてどういう体制を組んでいって、どういう心構えでいればいいんですかっていう部分も話をしたいで。今年私がやりたいと思ってるのは、このような話を PTA の方にも共有する中で、PTA のあり方変え変えましょうという問いかけをしたいと思ったんです。

つまり、その運動会の前に草を刈るのを手伝ってくださいとか、窓枠拭いてくださいとか、そういうしょうもないお手伝いはいらない。

シルバーに頼むとか、外注で構わないんで。或いは学校の教育方針こうなんで、それを組織立って運営を手伝ってくださいみたいなこともいらなくて、今やってるその子どもの理解を深めるみたいなことを一緒に勉強するような部分であったり、本当に今言ったどういう力を育みたいですかみたいなことを一緒に議論するとか、それに向けて私は読み聞かせの何かクラブを立ち上げたいわとか、何か活動したい人がいれば、それぞれのいろんな付加価値を生むための活動を、やってもらえるような感じにして、もうなんか今までの役職とか、形式的になんか出してもらって保護者の意見も聞いた形にさしてくださいとか、もうそういうのをもうやめようということも振りたいと思う。

女性教育推進会議ってあるじゃないですか。挨拶をしたんですけど、今まで長く頑張っていたいただいてた先輩方と、ちょっともう年齢別層が空いた動員されたお母さん方がまじってるんですよ。

その動員されたお母さん方は、いや各 PTA と育友会から出ることを義務づ

けられてるんで、何しに來たかよくわからん雰囲気の中で、とりあえず義務だから來てるみたい。それがこの間、ほんとステーションでやってる、森永さんの話みたい、ご紹介して子ども理解の話したら、ちょっと今までと全然反応が違った。

だからやっぱりその子ども理解だったり子どもにどう向き合うかみたいな部分については、ある程度関心がある人が多いし、或いはそこが関心というより、自分自身をどうしていいかわかんないっていうのが不安になってる人も多いから、そっちも学んで、我々が目指す大綱みたいなことへの理解者を増やしていくっていう部分に、PTA そのものを、変えてきませんかという。何となく言ってる意味はわかっていただいけますか。

#### 1. 吉田委員

学校のボランティアとかね。労働終わったらさっと帰っていくようではね。終わってから話をして、子どもの話やら、近所で話をしながらそこが大事だと思うんですね。

#### 1. 市長

そういう機会として使ってくればいいんですけど、今は、お世話になっている学校だから恩を返さないとみたいなのが残っている学校もある。たぶん、それは教育の方向性に皆疑いを持たないし、方向性は前提としてある状態です。今はそれが揺らいでいるのに、ちゃんと対話が出来ていないから、たぶんこれだけほんとステーションで案件が上がってくるようなボタンの掛け違いが起きてる。

そのボタンのかけ違いをどうしようかなみたいなことで、今回やっていきましたけども、やっぱりもう大元のずれの状態をちゃんと議論して、対話する流れを作らなかったら、対症療法でしかない。それが今回の教育大綱の部分なんだろうと、そんな感じで思っておりまして、次回は、この力をつけるためにも吉田委員はちょっと言っていました。

その上から教えるっていうことではなくてっていう、そういう心構え的な部分でも結構ですし、その体制として持っていないといけないということかっていう部分を、それぞれちょっと考えていただいて、それで、ディスカッションしましょう。

終了

午後 2 時 01 分